

ハーモニー

本市では、地域の皆さんの協力を得ながら様々な地域活動を通して男女共同参画を地域の推進に取り組んでいます。

平成 27 年度は、門池地区で男女共同参画について考えていただく機会として、避難所運営に焦点をあてた「男女共同参画の視点を導入した避難所運営講座」を開催しました。

また、防災だけでなく、地域の様々な分野において男女共同参画を推進していただきたいことから、今年度は、門池地区社協とかなおか地域包括支援センターと連携し、フォローアップ講座を開催しました。

今回、この 2 年間の門池地区の取り組みの報告として「ハーモニー特別号」を作成いたしましたので、皆さんにお届けします。今後の門池地区の地域活動の参考にさせていただければ幸いです。

平成 27 年度 男女の視点を導入した避難所運営講座

ポイントは
「多様性への配慮」

講座には、自治会長、防災委員、女性委員の方を中心に、約 50 人の皆さんに参加いただきました。

静岡県立大学の犬塚教授を講師にお招きし、男女共同参画の基礎知識を学ぶとともに、避難所運営において、どのような配慮が必要なのか、グループワークやHUG（避難所運営ゲーム）等を通じて検討を重ね、9月の避難所運営訓練に臨みました。



常に意識すべきポイントは「多様性への配慮」です。

地域には様々な方がいらっしゃいます。年齢も性別も抱えている事情もそれぞれが異なる中で、いかにその多様性に配慮しながら、皆で協力していくかが重要となります。避難所運営訓練では、受講者が総務情報班、食糧物資班、施設管理班、保健衛生班に分かれ、避難所の設営や避難者への対応を体験しました。

また、講座と訓練を通して、受講者の皆さんから出た意見を取り入れた「多様性に配慮した避難所運営ミニガイド」を作成しました。（次ページ掲載）

ミニガイドは、避難所運営の際に配慮すべき重要なポイントをまとめています。ぜひ、今後の地域防災の参考にしてください。



避難所運営については、男女共同参画の視点を含めて不十分な事が多すぎるので、今後、自治会で協力して準備をしていきたい。

受講者の感想



今回の講座で、男女共同参画が今後の地域活動の核心になることがわかりました。

『多様性に配慮した避難所運営ミニガイド』

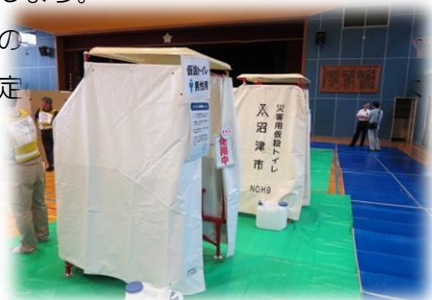
プライバシーの確保・性別等に配慮した居住空間づくり

- 乳幼児、妊産婦、単身女性や障害者とその家族などに配慮した優先スペースをつくりましょう。
- 間仕切りなどを活用してプライバシーを確保することで、安全・安心な居住空間を作ることができます。



衛生環境

- 仮設トイレは男性用と女性用を離して設置しましょう。
- 男性に比べ女性の方が混みやすいことから、女性用の数を多めにしましょう。（目安として男女比 1：3）
- 障害者や高齢者、乳幼児などに配慮し、多目的トイレを設置しましょう。
- 多目的トイレは、高齢者や障害者の意見を聞きながら、居住スペースから離れすぎないように設置しましょう。
- 多様な主体が参加してトイレの使用ルールを決め、トイレに貼り出しましょう。
- トイレや入浴施設のローテーションを組み、特定



安心安全の確保

- 犯罪対策のリーダー（男女とも）を決め、有事にはリーダーを中心にいかなる犯罪も許さない毅然とした姿勢を示しましょう。
- 女性や子どもからも意見を聞き、環境改善に反映させましょう。
- 女性や子どもに対する暴力等を予防するため、居住スペースや女性専用スペース等を巡回警備しましょう。（男女それぞれ複数名で構成）
- 防犯ブザーを配布したりするなど、安心・安全の確保に配慮しましょう。
- 更衣室・トイレ・入浴施設などは、男女別とし、できるだけ男女離して設置し、昼夜問わず安心して使用できる場所を選んで設置しましょう。（照明や防犯笛を用意する）
- 化粧できないことがストレスになる人もいるので、更衣室などの女性専用スペースには、鏡や基礎化粧品などを用意しておくのも良いでしょう。
- 下着などを安心して干せるスペースを確保しましょう。

避難所の受付

- 窓口は男女ともに配置しましょう。担当者は、ローテーションを組み、特定の性別、特定の個人に負担が偏らないよう配慮しましょう。
- 避難者の多様性（DV 被害者等）に配慮し、被災者名簿の公表は、外部公表への同意の有無を確認した上で行いましょう。
- 高齢者、障害者、妊産婦、そして乳幼児など、それぞれの事情に配慮して居住場所に案内しましょう。
- 在宅避難者の受付も設けるようにしましょう。



心のケアと健康チェック・相談体制

- 「悩みごと相談所」を設置するなど、心のケアを行いましょう。同性のほうが相談しやすいこともあるので、相談員は男女ともに配置しましょう。
- 妊産婦や乳幼児、高齢者などは保健上の配慮が特に必要なため、専門家と連携して、状況に応じた対応を行えるようにしましょう。
- 心のケアや健康問題は、専門家と連携を図りながら対応しましょう。心のケアが必要そうな人（ふさぎ込んでいる、笑わなくなった等）を予め把握しておき、保健師や医師による健康チェックの際に伝え、特に留意して対応してもらうようにしましょう。
- 同性同士、または同じ境遇の人同士で交流できるスペースをつくるのも良いでしょう。
- 禁煙・禁酒によりストレスがたまる人もいますので、時間や場所などのルールを決め、ストレスを解消することも必要です。
- 避難所運営を担う人たちは、自身や家族が被災している状況で、運営に携わっています。運営メンバーは、ローテーションを組み、休める時間をつくりましょう。



特別なニーズを持つ人への配慮

- 周りを気にせずに授乳できるスペースやおむつ替えスペースをつくりましょう。
- 保護者がトイレや用事で出かけるときに、乳幼児や高齢者、障害者を預かる「一時預かり所」をつくるとよいでしょう。預かり所の担当者は、ローテーションを組み、特定の性別、特定の個人の負担が重くならないよう配慮しましょう。
- 女性用品や粉ミルク、おむつなどを用意し、気兼ねなく受け取れるよう専用置き場をつくりましょう。



食糧・物資の仕分けと配布

- 女性用品や子ども用品、介護用品など多様なニーズを把握し、物資の要請・調達を行いましょう。
- 避難所での生活が長期化する場合には、男女のニーズの違いのほか、妊産婦・乳幼児・食事制限のある人等の刻一刻と変化する多様なニーズを把握し、物資の調達及び供給を行いましょう。
- 多様なニーズを把握するため、意見箱を設置するなどの工夫をしましょう。
- 炊き出し担当者は、男女混合でローテーションを組みましょう。
- 食料・物資の不足時のため、配給の優先順位を決めておきましょう。
(例：乳幼児・妊産婦・高齢者・障害者を優先)
- 物資の受入作業は重労働となるので、避難者やボランティアに協力を呼びかけ皆で協働して行いましょう。
- 災害時には固定的性別役割が強まる傾向があります。役割のローテーション化や、中学生などの参加要請、連休時の災害ボランティアの派遣要請なども考慮するようにしましょ



平成28年度 沼津市男女共同参画地域フォローアップ講座 ～「門池地区福祉研修会（地域共生事業）」～

フォローアップ講座は、門池地区社協とかなおか地域包括支援センターの全面協力のもと、地域住民の「共助」の重要性や様々な地域福祉活動の担い手として、女性だけでなく男性の参画が重要であることを理解するとともに、日頃から性別にとらわれない考え方を身に付けていただくことを目的に開催しました。

グループワークで、地域福祉の現状について話し合い、課題の共有化を行いました。



日 時：平成28年9月24日（土） 19:00～21:00

場 所：門池地区センター（会議室）

テーマ：「見よう！わが地域 考えよう！地域福祉」

コーディネーター：正岡明美さん（かなおか地域包括支援センター長）

アドバイザー：犬塚協太さん（静岡県立大学国際関係学部教授）

受講者：135人



【犬塚教授からの講評】

昨年度は、防災をテーマに取り組みましたが、実は、高齢化やそれに伴う介護は、防災と並んで、むしろ日常的な意味では、男女共同参画としてより重要なテーマです。

現在、「介護の女性化」が問題となっています。一つは、平均寿命の問題。寿命が長い分だけ、女性の方がより長い期間介護対象となる可能性があります。また、要介護者となる女性が増える中で、介護の担い手としての女性の数にも限界があります。そんな中で、地域での介護のキーワードは「男性」です。

男性が、当事者意識を持つことが大事で、まずは、自分の問題として自身ができるだけ要介護者にならないように、またそうになったとしても、なるべく自分でできるようになる「自助」の努力が必要です。

そして、男性が介護の担い手となることが最も大切です。これまでの介護は、圧倒的に女性に偏っていました。現役世代ではなく、仕事をリタイアした男性の方々こそが、地域での介護の要です。

男女共同参画の視点から、男性・女性の課題の違いをしっかりとらえて、地域福祉を考える必要があります。



参加者の感想

「介護に関して、地域男性がポイント」と言うのが印象に残った。



福祉というざっくりしか知らなかったことも、少しずつ知っていくこと、理解していくことが大切だということがわかりました。



発行：沼津市 企画部 地域自治課 協働推進係
〒410-8601 沼津市御幸町 16-1
TEL：055-934-4807
FAX：055-931-2606
E-mail：kyodo@city.numazu.lg.jp
（平成28年12月発行）